

JHAT 活動のご紹介

JHAT 事務局長 山家敏彦

この度の熊本地震で被災された方々におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

また、災害支援活動におきましては、日本透析医会、JHAT 他、さまざまな団体からの迅速な活動が逐次行われ、その情報は、重複しながらも的確に発信されております。そのような状況下、「日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）」の活動趣旨が十分に周知されていなかったことから、一部の先生方には、混乱をきたすようなことになってしまいましたことを心よりお詫び申し上げます。

つきましては、大変遅い対応となってしまいましたが、あらためまして、JHAT の活動趣旨をご理解頂くために、簡単なお説明と雑誌の紹介記事をご紹介します。

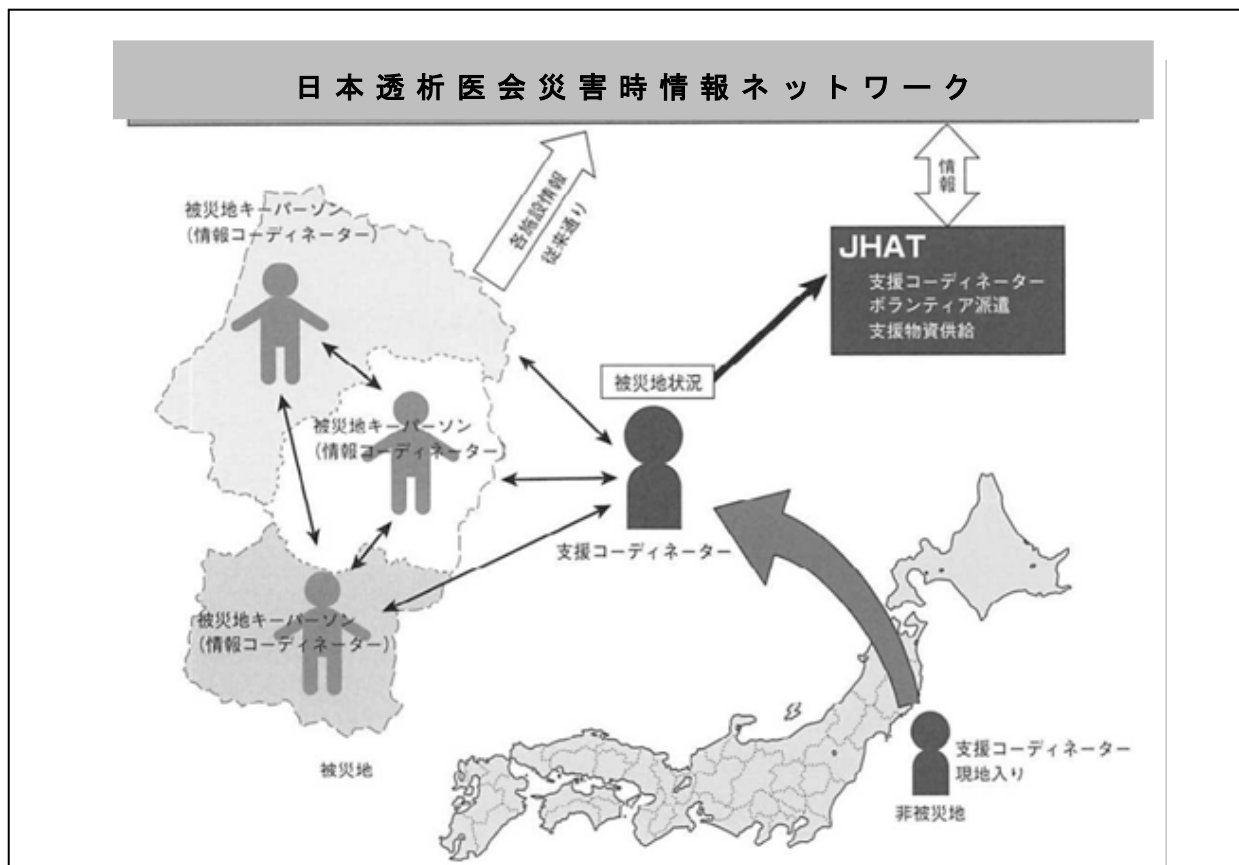


図. JHAT 活動の流れ
Clinical Engineering, vol.27 no.3, p231-235, 2016

日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT : Japan Hemodialysis Assistance Team in disaster）は、約 1 年の準備、調整期間の後、昨年 2015 年 12 月 9 日のキックオフミーティングをもって正式に設立しました。発起人となっている団体は、日本透析医会、日本臨床技士会、日本腎不全看護学会、日本血液浄化技術学会の 4 団体であり、一致団結して被災した施設、医療スタッフへの支援活動を行うことを目的としています。

具体的には、発災後、支援コーディネーター（先遣隊）がいち早く被災地に入り、被災地の情報コーディネーターとコンタクトをとりながら、被害の状態把握、支援物資、ボランティア派遣の調整などに関する情報収集活動が主となります。JHAT では、活動を行う主たる手段として、全国的に網羅され高い完成度に達している日本透析医会災害時情報ネットワークを中心に活用することとしています（図）。

昼夜を問わない業務を強いられる災害時の透析医療において、医療スタッフとその家族を主に支えることを目的とした JHAT ですが、周囲の状況を判断しながら柔軟な支援活動を行いたいと考えます。

今回、JHAT 活動計画の半ばにあって、このような甚大な被害をもたらした熊本地震に遭遇したことから、事前の準備も整わないまま活動開始となり、多くの方々に対して混乱を招いてしまいましたことをお詫びしますとともに寛大なご理解を頂きましたことに心より感謝申し上げます。

この度の熊本地震への支援は、長期戦を見据えた体制が必要と考えますが、各位のご指導を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

JHAT の取り組みにつきましては、この度の経験も含め早急に完成度の高い支援体制を構築したいと考えております。JHAT 活動の骨子をはじめとした詳細は、学研メディカル秀潤社の無料配信サイト <http://i.wook.jp/000244/244443/> の 231 ページに掲載されておりますので、ご参照いただければ幸いです。

今後とも、ご理解ご協力の程をお願い申し上げます。

【JHAT 本部事務局】

〒243-0292

神奈川県厚木市下荻野 1030

神奈川工科大学 K4 号館 407 号室

E-Mail : jhat@mbr.nifty.com